

向日市による富永屋の修復、存続・活用に関する請願

＜署名簿＞

向日市議会議長

令和 2年 2月 日提出

天野俊宏 殿

郵便番号：610-1133 住所：京都市西京区大原野小塩町 383

電話番号：075-331-0380

むこうまち・西国街道の未来を考える会 事務局長：安井 やすい 昭 あきら

＜請願項目＞

- ・向日市は、老朽化・損傷の激しい富永屋に対して、屋根・壁などの緊急修繕を行って下さい。
- ・向日市は、富永屋を「登録有形文化財」として国に登録申請する手続きを行って下さい。
- ・向日市は、富永屋を地域の宝として、存続・活用のための最大限の努力をして下さい。

＜趣旨および理由＞

向日市・西国街道沿いの、築約 280 年の旅籠・富永屋は、豊臣秀吉や徳川慶喜が休憩し、伊能忠敬が宿泊した歴史的文化的建造物であり、かつコミュニティ・文化活動の拠点でした。

その富永屋が現在、1)建物の老朽化・破損が進んだこと、2)修繕・保存に関する公的補助がないことによる負担、3)所有者の高齢などを理由に、取壊しが検討されています。

富永屋は、向日市の「向日市歴史的風致維持向上計画」の事業計画の中で、平成 27～29 年度の『歴史的建造物（富永屋）活用事業』として挙げられ、「西国街道沿いのまちなみ景観の保存につながる修景を行い、市民活動や来訪者に対する案内および情報発信する拠点として利用できるよう、市による公有化や耐震化などの改修を含め、保存・活用を行う」と明記されていました。しかし、平成 27 年度段階では「所有者との協議の結果、公有化での整備について、事業期間内では達成できないものとし、その他の保全・活用方法について、今後検討を要する」とされ、現在まで修繕等が行われていません。

富永屋が解体された場合、貴重な地域の文化財としての損失のみならず、コミュニティの核が失われることとなり、将来の向日市のまちづくりにも極めて大きな損失となります。上記内容の、すみやかな検討・実行を望みます。

名前	住所

※2 月 15 日までに、「むこうまち・西国街道の未来を考える会」の発起人、もしくは署名取りまとめ者にご提出お願いいたします。